

佳作

母さんありがとう

秋田県 男鹿市立弘戸小学校 四年 小澤田 悠太

ぼくは、今、四年生で、地元の小学校に通っています。ぼくは、耳が不自由なので、ほちょう器を付けています。

ぼくが、今、こうして話せるのは、母さんのおかげです。

2才の時から、母さんは、言葉の訓練をうけさせるために、毎日ろう学校へぼくを連れて行ってくれて、家では、朝から夜ねるまで、ぼくに話しかけて、いろんな言葉を耳に入れていってくれたそうです。

そんな時に、ろう学校の先生に、こんな事を言われた事があつたそうです。

「耳が不自由でも、必ず話せるようになります。言葉のシャワーをずっと浴びさせると必ず……。それは、お母さんでないとできない事です。」

その言葉を信じて、母さんは、今でもずっと続けてくれています。

言葉の指どりは、家の中だけではなく、さん歩中・車の中・買い物先のデパートでもやっていたそうです。母さんも最初は、周りの人に白い目で見られ、たえられなかったそうです。はずかしさは捨て、なによりもぼくを一人前にしなければという思いで、話しかけ続けてきたそうです。毎日、夜ねるころには、のどがいたく、声のかすれていたそうです。

そんな親のど力も知らず、ぼくは勉強するのがいやな時などは、耳のせいにしてしまいます。

「聞こえないから……。」

と言って、やらない時もあります。

そんな時、母さんは、まるで鬼のようにおこります。

「耳が聞こえないから、勉強が分からない？それは、ちがう。何度も聞くと、分かるでしょう。聞く気持ち、覚えようという気持ちがないからでしょう。耳が不自由だつて、何でもできる。耳のせいにするな。」

と言われます。そんなきびしい母さんに育てられ、ぼくは、今、四年生になりました。

今年の春から、スポ少の野球部に入りました。周りの音、かんとくの話が、聞こえない時もあり、不安になる事があります。でも、そんな時は、友達が助けてくれるので、ありがとうの気持ちでいっぱいです。母さんに、おこられた時や、学校で友達とけんかしたり、いやな事があつても、大好きな野球をやるとすつきりします。そして、また、がんばるぞという気持ちになります。

ぼくの目ひょうは、楽天のマー君のように速い球を投げ、ストライクをたくさん取れるようなピッチャーになることです。そして、母さんを喜ばせたいなあと思っています。

ぼくは、これからは、わがままですぐおこる所を直したいと思います。そしたら、母さんも少しは楽になるかなあと思います。

わがままで、いつも困らせてばかりでごめんね。そして、これからもよろしくね。